



環境リテラシー：市民と教師の環境読本「第2版」

稲生 勝・岩佐 茂・大日向聡夫・吉埜和雄 編

(株)リベルタ出版発行A5判224頁

2009年12月第2版発行 定価2,400円(税別)

ISBN978-4-903724-18-8

「環境リテラシー」の第2版が出版された。初版は2003年であるが、その後、地球温暖化問題などで大きな変化があったため、今回大幅な加筆修正が行われた。本書は、環境問題を考える研究会「環境・環境教育研究会」が1998年6月以降、100回以上の研究会を重ねてまとめ上げた「環境読本」である。研究会の構成メンバーは高校教師、大学教師、研究者、大学院生、留学生、市民などで、常時10名程度の参加を得て議論を重ねてきた。本書の執筆にあたっては、自然科学的視点と社会科学視点との両方の視点を踏まえた総合性ということに留意したと記されている。また、理解しやすいように多くの図表のほかに、26個のコラム記事が掲載されている。これらは環境問題が学際的課題であり、また生活に密着した問題であることを、読者に理解させる上で有効なものとなっている。筆者自身も本書を読むことで、環境問題を学際的側面と生活者としての側面の両面から学ぶことができた。私自身、生活者として、環境問題に対してどんなアクションを起こしているのか、反省しつつ読み終えた。また、私の専門外である経済活動や、社会から見た環境問題は大変参考になった。環境問題を少しでも多くの方々に取り組んでほしいと考え、ここに本書の紹介をさせて頂くこととした。

全体構成

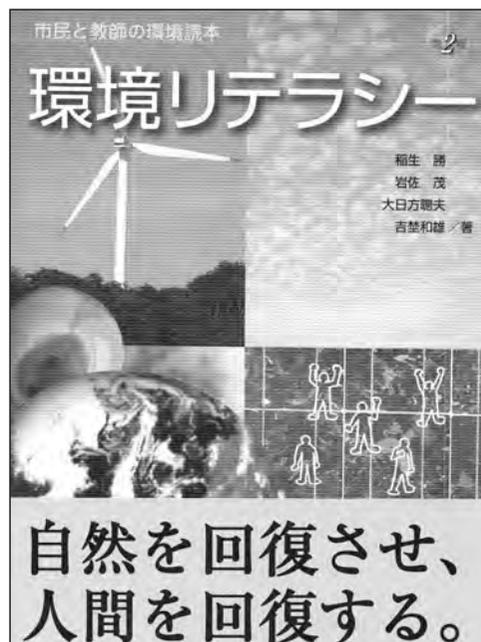
本書は、第1章から第5章と終章から構成されている。その概要を以下に示す。

第1章：生物が作り変えた地球環境

本章2節では、「自然史の壮大な循環のドラマ」として、地球の歴史と物質循環を紹介している。われわれ地球科学に関わるものにとっては最も関連の深い部分である。3節では、循環を基軸とする生産システムについて紹介している。

第2章：地球規模の環境破壊

本章では、地球温暖化に関する具体的なデータを引用して、その深刻さを解説するとともに、国際的な取り組みを紹介している。また、大気汚染、水質汚染、土壌汚染のほか、森林破壊、生物多様性



の危機、砂漠化、戦争による環境破壊について解説している。

第3章：地域の環境破壊としての公害

本章では、公害という視点から大気汚染、水質汚染、土壌汚染、環境ホルモン、食の安全、騒音公害を具体的に説明している。

第4章：経済活動のなかの環境問題

本章では、工業化がもたらした環境破壊、化石燃料・原子力エネルギー・自然エネルギーの特徴、環境問題としての廃棄物について説明し、最後に維持可能な開発についての取り組みを紹介している。

第5章：環境保全に向けて

本章では、環境産業革命とは経済における物質の流れを自然の物質循環に相反しない方向に組み替えることであり、大量生産・大量消費・大量廃棄の生産システムから、適量生産・適量消費・最小廃棄へ転換していくことであると説明している。そのためには、生産者が廃棄物についても責任を負うということを明確化させるとともに、環境倫理の確立を図らねばならないと指摘している。

終章では、環境教育は学校教育や市民教育として重要であるばかりでなく、その内容を「こころがけの教育」を超え、「科学的知見の教育」に高めなければならないと指摘している。(産総研 地質標本館 玉生志郎)